

特別研修

月例研究会 議事録 (9 月)

2008 年度第 3 回

報告題名 自由貿易協定における農産物貿易問題の発生と調整	
報告者 福田竜一 (所属分野) 地域計画学	日時 15:00-17:00
座長 池田	場所 第7講義室
議事録担当者	
出席者 米倉、川村、大鎌、石井、両角、長谷部、木谷、伊藤、佐藤章夫、澁谷、鹿嶋、福田竜一、小山田、佐藤文吉、池田、高嶋、田口、松井、村松、ソ、八木、柳瀬、神浦、佐々木、野村、水木	
報告要旨 近年の自由貿易協定(FTA)の特徴は、それまでFTAに消極的であった多くの国々が積極的姿勢に転じたこと、また必ずしも地域の枠にとどまらない、いわば超・地域的な2国間FTAの締結が盛んとなったことなどがあげられる。本報告では、第1に、ドーハ開発アジェンダ'(DDA)停滞下においてFTAの締結が盛んとなったが、そのようなFTA締結競争を主導していた国は、どのような国で、どのような特徴を有していたのかを明らかにする。第2に、DDA停滞下で締結・発効したFTAの中から、FTA締結を主導した主要国同士による2国間FTAのいくつかを考察の対象として、それらFTA交渉ではどのような農産物貿易問題が発生していたのか、その背景と特徴を明らかにする。第3に、そのようなFTAの農産物貿易問題は、2国間の交渉によってどのように調整されていたのか、その様式などを各国別に整理して、そこにみられる特徴と限界を明らかにする。	

質疑・応答

池田：具体的な研究の目的とは？

福田：FTA の進行と WTO の停滞の中で、どのように農産物貿易問題が発生し、どのように調整が行なわれて行ったのかを解明することである。

木谷：FTA は経済的利益だが、食の安全、安全保障等の問題が大きくなっているなかでどうなるのか。

福田：確かに農業の重要性は一貫して低下している。また FTA の目的が経済的メリットだけではなく、途上国においても依然として重要な産業でもある。少なくとも今日までは、農業は FTA 交渉を左右する重要性をなお持ち合わせていたと考えている。

木谷：計量的分析において代替できるものとして、同じ生産物をとらえて分析しているのか？

福田：同じとして扱っている。ただし国産と外国産には一定の代替性があるとして扱っている。

伊藤：スライド 12。第 4 グループには何が入ってくるのかというのを入れると何を指そうとしているのかがわかり易い。EU 原点にしたと言ったほうがよい。

福田：そのような方向で、再度検討してみたい。

米倉：試算した農産物貿易問題の 2 国間の距離が大きい方が、FTA 締結が難しいと言えるのか。

福田：そうとは言えないことも多く、距離の長短と FTA 交渉の困難度の関係を明らかにするには至っていない。だが、大まかにはそのような傾向があるのではないかと考えている。

米倉：WTO、EPA、FTA によって農産物交渉がうまくいったのか？

その先に全体の進展はあるのかというのを論文の中に入れると良いのでは？

福田：WTO 交渉はまだ決着していないが、基本的には FTA の進展によって、一部の重要品目を除いて、農産物貿易自由化交渉の進展が進んだとみるべきであると考えている。

両角：FTA でまとまらない問題を WTO 交渉に「外部化 (= 棚上げ)」したという表現を使ってもよいのか。

福田：FTA で片付かない問題は WTO 交渉に外部委託したという意味で使ってみた。問題は特にないと考えていたが、再検討したい。